



医学統計学研究センター
令和元年度第6回セミナー



インフルエンザ・ワクチンの効果に関する 研究デザインはどうあるべきか？

*What the study design on the efficacy and/or effectiveness of
influenza vaccination should be?*

講 師： 丹後俊郎（医学統計学研究センター）

日 時： 令和2年3月13日（金） PM1：15～PM5：00

場 所： 汐留イタリア街東京茶業会館 東茶協ホール
（6階もしくは8階、当日ビルの入り口に掲示します）

参考書： 丹後俊郎「新版 統計学のセンスーデザインする視点・データを見る目」
朝倉書店（2018）3,500円 ※参考書購入を希望される方は事前登録が必要です。

対 象： 臨床医学、公衆衛生学、疫学などの研究に従事している大学院生、研究者、実務家、
臨床開発に従事している製薬企業の統計担当者、その他、本セミナーに興味のある者

参加費： 参加申し込み区分（税込）：

A：アカデミック 1万2千円（大学・病院・大学に所属する研究機関所属の方）

B：ノン・アカデミック 2万4千円（企業、企業に所属のある大学院生の方）

セミナーの内容：

話は少々古くなるが、1987年に作成された「インフルエンザ流行防止に関する研究班」の報告書を、当時の公衆衛生審議会が検討し、同年に意見書を公表しているが、その骨子は「個人に対しては発病防止効果、重症化防止効果などの点で利益を与えている」という内容であった。しかし、丹後、他（1990、日本公衛誌）は、小学生を対象とした類似の調査データを再解析することにより、厚生省研究班が示した効果が、実は、児童の「普段の健康度」に交絡した「見かけの効果」、であった可能性が強いことを示した。

それから約30年経過した現在の状況はどうだろうか？最近では、病院を自分の意思で受診した患者さんだけを対象としたTest Negative Designによる研究が世界的に増加している。つまり、医師の日常の診療活動の中で実施できる「楽な研究デザイン」である。そのデザインから推定される有効率は、例えば、43%などと推定される。一体、この43%とは何を意味するのだろうか？

本セミナーでは、昔から論争が絶えない「インフルエンザ・ワクチンは効く、効かない」の議論ではなく、「インフルエンザ・ワクチンの有効性に関する研究」を例に挙げて、一般国民にも理解でき、かつ、適切な推定結果が得られるための研究デザインはどうあるべきか、について解説するとともに、参加者の皆さんと議論したい。

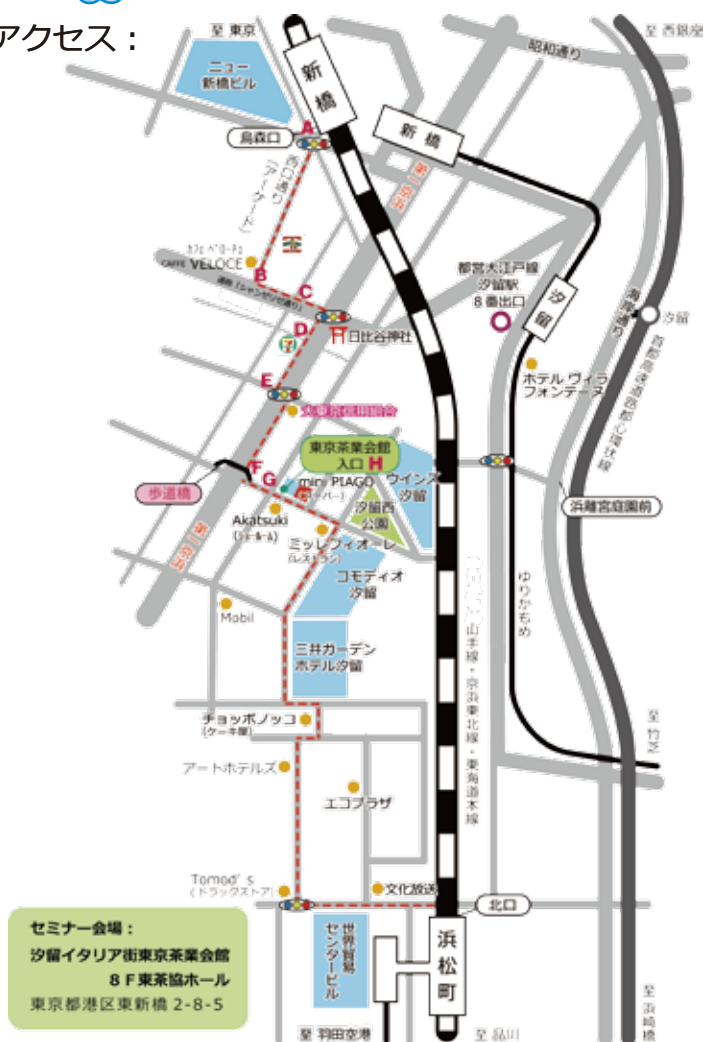


エレガントな汐留イタリア街で行われる
最先端のセミナーに参加しませんか？



Coffee Breakでは素敵な音楽とCoffee & Sweetsが楽しめます

アクセス：



**東京茶業会館
東茶協ホール**
港区東新橋 2-8-5
(汐留イタリア街)

JR「浜松町」駅「新橋」駅
地下鉄大江戸線・ゆりかもめ
「汐留」駅、地下鉄三田線
「御成門」駅より 徒歩7分
地下鉄浅草線・大江戸線
「大門」駅より 徒歩8分

<http://medstat.jp/info/mapseminar2017jan.pdf> に新橋から会場までの説明案内がございます。詳細はそちらをご覧ください。

セミナー参加申込方法：

参加希望の方は、配布資料の準備もございますので、**3/5** (Thu) までに、できる限り、事前登録をお願い致します。

参加申し込みは  e-mail にて承ります。参加費は当日お支払い下さい。
※領収書と参加証明書お渡し致します

宛先：secretary@medstat.jp

件名：第6回セミナー参加申込

本文：1. ご氏名 2. ご所属 3. 参加申し込み区分
4. 参考書籍書籍購入希望の有無

※セミナーのお申し込みをいただいてからお申込者様のご都合でキャンセルされる場合、キャンセル料を申し受けますので、ご注意ください。セミナー開催の

8日前（開催当日を含まず）まで： 不要
7日前 - 前々日のキャンセル： 参加費の半分
前日 - 当日のキャンセル： 全額